

八工大とユーラシア大(カザフ)

教育・学術交流へ協定

八戸

八戸工業大学(長谷川明学長)と、カザフスタンの首都アスタナにある「国立ユーラシア大学」(イエエルラン・シディコフ学長)は、教育や学術研究に関する相互交流を深める協定を結んだ。長谷川学長は八工大で28日開いた記者会見で、「本学には地域に貢献したいという学生が多いが、海外に関心を持つことの大切さも伝えたい」と今後の交流に期待した。



八工大が海外の大学と協定を結ぶのは今回で4大学目。ユーラシア大には現在、

自然科学や輸送・エネルギーなど13学部があり、学生数は学部生・大学院生を合

(樋渡慎弥)

わせ約1万6240人。八工大は今後、ユーラシア大の学生らを受け入れるほか、発電や省エネルギー技術、老朽化までを見据えたインフラ整備などについて共同研究を行う。

協定締結は、地盤工学が専門でユーラシア大教授のアスカル・ジュスベコフ氏が90年代に八工大で研究の

交流協定書への署名後に握手を交わすユーラシア大のイエエルラン学長(左)と八工大の長谷川学長(八工大提供)

指導を受けたことなどが縁。長谷川学長が昨年夏ごろ、アスカル氏を通じ交流協定を打診した。

長谷川学長は、21日に現地で行われた署名式に出席した際、ユーラシア大のイエエルラン学長から「アスタナは東西の交差点。それぞれの文化を学ぶことができ」との話があったことなどを紹介。「地道な活動を

持続的にを行い、人材育成に役立てていきたい」と、協定締結の意義を強調した。

八工大はこれまで瀋陽工業大学(中国)、新疆大学(同)、太平洋国立大学(ロシア・ハバロフスク地方)と協定を結んでいる。ユーラシア大が日本の大学と協定を結ぶのは、筑波大、大阪大、東海大に続いて4大学目。

※ 「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」